

第5学年 総合的な学習の時間

しごとって何だろう

～しごと体験と総合的な学習の関連を考える～

<授業のポイント>

総合的な学習の時間の学習を、しごとに対して自分なりの考えをもてるような内容に押さえ、他教科との関連を図りながら単元を構成することで、児童が自から主体的に生き方を見つめていくことができるのではないかと。

<授業改善に向けての考察>

様々なしごとを調べることを通して、自分を考える。

児童の発想を生かした単元の導入

7月、七夕飾りの短冊を書くときに「大きくなったら になれますように。」と書く児童がいて、児童は他の児童の書く内容の違いに注目した。多くの児童が「プロ野球選手になれますように。」と大まかな業種を書く中で、「旅行代理店でツアーを企画するしごとがしたい。」などと、具体的な仕事内容まで書く児童が、3, 4名いたためである。なりたいしごと から したいしごとへと考え方を広げた瞬間であった。7月は丁度、愛川体験学習の行程について話し合う時期でもあった。本年度訪れることにしたダムや牧場、繊維会館（レインボープラザ）についても同様の目を児童は向け始めていたので、ここで単元化することにした。

身近な人に関き取ることを通して

研究授業の時には、保護者や親戚の人が携わっている仕事について、調査してきたことを発表する場面を行った。身近な人が、社会科の教材で扱うような努力や工夫を行いながら仕事を進めていることに気づき、児童はますますしごとへの関心を高めることができたといえる。それまで、家の人がどのような内容の仕事をしているか聞いたことのない児童も多く、驚きとともに、疑問を上げている様子が見られた。しごとをしているときに大切にしていることについて話し合う場面では、「相手の身になって考える」と答えた保護者が多く、国語科「わらぐつの中の神様」との関連もあって、「自分がしごとをするとしたら」と考えを深める児童が多く見られた。この気持ちを大切に、本校の特色である「しごと体験」へと結び付けていきたいと考えた。

また、アンケートの中で、相手に気持ちを届けようと考えながらいていないしごとをしている家族の姿に感動している児童もいた。しかし、アンケートの中身が具体的になればなるほど、個人情報や人権に触れる部分があらわれることから、アンケートをもとにした学習の難しさについて話し合いがなされた。十分考慮した上で質問の形を考えることが大切だと分かった。

他学年との結びつきを考える大切さを今後とも検証したい。

学校全体がかかわる「しごと体験」について

第5学年で行っている「しごと体験」は、「生き方に学び、生き方を見つめる」ことをねらいとし、地域の協力をいただきながら行っている。児童が職業に興味をもち、自分の将来について考える「キャリア教育」の一環である。今回の実践では、「しごと体験」を一年間を通した「キャリア教育」の取組の一つとして考え、行ってみた。様々な方のインタビューをまとめていく難しさがあった。それとともに、アンケートの段階でのプライバシー保護など難しい面が多いことも明らかになった。また、第5学年で実践する前の段階での興味・関心、知識・理解などの高まりから、低学年での段階から「キャリア教育」に向けての段階的な取組を今後とも検討していくことが大切だと話し合った。

